



楷

第三十八号

岡山大学
 附属図書館報
 OKAYAMA UNIVERSITY
 LIBRARY BULLETIN

KAI
 No.38

2004
 FEBRUARY

<写真>

ごうとうかに
 海邊二生ス甲ノ大サ二寸餘
 可食

「備前備中国之内領内産物絵図帳」より（岡山大学附属図書館池田家文庫所蔵）

目 次

史料館：新しいものと古いもの（附属図書館資源生物科学研究所分館長）	p. 2
大学図書館職員長期研修に参加して（雑誌係 森谷めぐみ）	p. 4
灯台下暗しにならぬ様に（資料運用係 岡篤史）	p. 5
エルゼビア電子ジャーナル問題と学術情報の価格高騰に対する動き （電子情報係）	p. 6
池田家文庫等貴重資料展（情報サービス課）	p.10
マスカット	p.12
サービスカウンターの移動、ほか 会議・研修・編集委員から	p.14

史料館：新しいものと古いもの

玉田 哲男

この数年、私達は図書館へ出向く回数がかなり少なくなったのではないのでしょうか。私の専門は、植物ウイルス学ですので、分子生物学、遺伝子工学、バイオテクノロジーに関する文献や遺伝子に関する情報は、MEDLINEと呼ばれる米国で製作されたデータベースにほぼ全て盛り込まれ、好きな時に好きなだけ必要とする情報を取り出すことができます。数年前より岡大にも電子ジャーナルが導入され、一部の雑誌については全文ダウンロードできます。これまで新着雑誌に目を通すのが楽しみで、こまめにコピーしていたことを思うと何と便利になったことでしょうか。私自身、昨年より、新しい興味ある情報はパワーポイントに取り込み、編集して、講義やゼミに利用しています。コピーする必要がなく、慣れてくると短時間で処理でき、好きなようにアレンジできます。鮮やかなカラー写真や図表をそのまま取り込めるのは何よりもありがたいものです。一般に興味のある記事や知りたい情報については、パソコンでキーワード検索すると関連する多くの情報を容易に得ることができます。資料そのものが電子情報として世界中の様々なウェブサイトで公開されることが多く、まさに電子情報の時代です。従来の図書館の姿も大きく変わろうとしているのも事実です。

さて、新しいものに目を奪われている一方、時に古いもの、過去に生きた人々の遺産、知恵や心に触れてみることも大切なのではないのでしょうか。資源生物科学研究所図書分館（史料館）に保管されているペッカー文庫、大原漢籍文庫、大原農書文庫等は、貴重図書のコレクションとして、すでに幾度か紹介していますが、それ以外に、貴重な図書・学术论文が多数収められています。それらは、大正3年創設の財団法人大原農業研究所以来、資源生物科学研究所の今日に至る90年間の研究所の歴史を反映したものであり、それぞれの時代の自然や科学を知る貴重な財産であるといえます。

古い記録ということで、私の専門であるウイルス病について少し紹介したいと思います。当研究所に1952年から1973年まで植物のウイルス病について研究され、その後大阪府立大学にうつられた井上忠男教授（現大阪府立大学名誉教授、倉敷市在住）は、万葉集のなかにウイルス病について記載のあることを見つけました（1980年）。それは奈良時代後期の女帝、孝謙天皇の一首で、752年に詠まれたものです。「この里は 継ぎて霜や置く 夏の野に 我が見し草は もみちたりけり」（この里は一年中霜が降りるのだろうか。夏の野に私がみた草は、もみじのように黄色い葉をつけている）。この歌は、孝謙天皇が母の光明皇太后とともに、平城京の藤原仲麻呂の屋敷に立ち寄ったときに、鮮やかな黄化症状の植物（ヒヨドリバナ）を一株抜き取って詠まれたものだそうです。その日は現在の暦で5月30日、東大寺大仏開眼の式典が盛大に行われたとのこと。ヒヨドリバナは、秋の七草のフジバカマの仲間、広く日本に分布している野草です。このウイルスはコナジラミという昆虫の仲間によって伝播され、トマトなど多くの農作物に被害をもたらす重要なウイルス病であることがわかってきました。当時日本に発生していたこととなります。すでに井上教授らが20数年前に発見し、発表したものと全く同じ内容の記事が、昨年のNature誌に発表されました。“The earliest recorded plant virus disease: Pathogenic DNA paints summer foliage gold and inspired a poet over a millennium ago” 「世界最古のウイルス病の記録、万葉の歌に」日英の研究グループが確認として、

新聞などでも注目されました。

これまで植物ウイルス学の教科書にはウイルス症状の古い記録として、斑入りのチューリップを描いた静物画の写りが載せられています。17世紀のフランドルの画家達によるチューリップの絵です。斑入りのチューリップの中には、とても美しいモザイクになるものがあり、昔の育種家達は競って珍しいものを作ったようです。特にオランダでは、17世紀に大園芸ブームが起きました。チューリップはトルコ原産ですが、オランダ人の好みにあったためかその栽培が盛んになり、「チューリップ狂時代」(tulipomania 1634 - 1637)には、人々は珍しいチューリップを競って手に入れようとした記載があります。球根はとても高価で、大きな屋敷やビール工場などとも交換されたそうです。当時オランダで出版された園芸書には、斑入りのチューリップの作り方まで出ていました。斑入りの花を咲かせる球根の一部を切り取って別の球根に埋め込むというものですが、今考えると、球根を接ぐことによってウイルスを人工的に接種していたこととなります。この斑入りがウイルスによるものであると科学的に証明されたのは、その本が出版されてから270年後の1928年のことです。

ちなみに動植物を通じて最初に発見されたウイルスは、タバコのモザイク病で、1886年にドイツ人のMayerがモザイク病と命名し、汁液によって伝染すること、その後病原が細菌濾過器を通過する細菌より小さな病原であることが確かめられ、1898年オランダのBeijerinckによってラテン語で病毒を意味する“ウイルス”と名付けられました。また、天然痘や狂犬病のようなウイルス病は、古代から知られていました。ギリシャのアリストテレスは、狂犬病は犬に噛まれるとうつることを知っていましたし、ヘブライ人はこれを毒蛇に噛まれた場合と同じようなものだと考えていたということです。カイコの膿病は1527年に作られた歌に詠まれ、魚類のポックスもまた16世紀の文献に記載されています。

史料館には、その名称にふさわしく、貴重本や古い文献を多数保管しています。他の図書館と比べると小さく、ごぢんまりとしていますが、使いやすく、きちんと保存、整理しております。とくに大原孫三郎氏が大正10 - 13年頃、日本の農業に関する図書を網羅的に収集させた農書のコレクションである大原農書文庫、大正12年、当時の研究所所員である西門義一博士らを中国に派遣し、収集させた農業および植物に関する漢籍（中国明、清時代の農書）など、電子情報化の時代、パソコンであらゆる情報を入手できる時代になりましたが、時に日本や中国の古い文献を図書館で探してみると何か価値のある貴重な発見があるかもしれません。

(たまだ・てつお 資源生物科学研究所分館長)



朝顔画報（資源生物科学研究所分館所蔵）

大学図書館職員長期研修に参加して

森 谷 めぐみ

平成15年度の大学図書館職員長期研修に参加させていただきました。期間は7月7日から25日まで、場所は前半の2週間が東京地区、後半の1週間が筑波地区に移って行われました。

東京での宿泊は渋谷の『銀杏荘』となりました。通常は、講義の行われる国立オリンピック記念青少年総合センター（オリセン）の宿泊施設が利用されるのですが、今回は予約ができず、『銀杏荘』か、もしくは個人で手配をと連絡がありました。研修スタッフの人にきくと、この期間、これだけの人数（40名）になるとオリセンに限らずなかなかまとめて予約をとるのはむづかしいそうです。なるほど規模の大きな研修です。『銀杏荘』でも交通の便は比較的よかったです。今年は冷夏で、梅雨明けがなかなかこず、研修会場に通う道すがら、雨ばかりふられたのにはまいりました。

印象に残っているのは、研修の3日目の7月9日、国立大学法人法が成立したことです。いよいよかあという感慨と同時に、今後に向けての緊張感を感じ取りました。研修の講義、グループ討議では、新しい大学制度とそれに向けての図書館の変革、今後の課題などが話題の中心となりました。オフのミーティングはまたざっくばらんな雰囲気、雑談や裏話もまじえ、活発な意見交換が行われました。

このような節目の時期、実務を離れ、大量の情報ばかりが与えられる機会に接したのはめぐまれていると同時に、きつい体験でもありました。困難な問題を前にしては、頭で考えるだけでなく、体も動かしていたほうが精神衛生上はよいものです。限られた研修期間では、自分の無知や能力のなさが何より痛感させられます。図書館学の知識だけでなく、外国語の能力や、法律、会計の知識。普段から必要性がわかっていてもなかなか勉強が追いついていないのが正直なところ。

人的、経済的に厳しい状況が、法人化後はますます厳しくなっていくでしょう。そんな中で図書館サービスの質を低下させないでどうやりくりしていくか？ 魔法の杖があるわけでもなく、現実には否応なしに進行していったなしという状況ですが、厳しさを逆にバネにして、精進していきたいと思います。

いろいろと考えさせられることが多く、このままではノイローゼになるかもしれないと思いかけてもいましたが、2週目くらいからはいろいろな図書館や関連施設の見学も入り、歩いたり、外気に触れることもできたので、だんだんとバランスがとれていきました。週末は映画を見に行ったり、友人と会って気分転換を図りました。法人化って何？ って聞かれ、一言で説明できず、うーんと口ごもってしまうのが、情けないところであり、一筋縄ではいかない今後の未来をあらわしているようでもあります。春にオープンしたばかりの六本木ヒルズにも行ってみました。昔ながらの町並みから、そこだけ切り離されたような人工の世界。意外と人通りが少なかったなあと記憶しています。

東京での日程を終え、いったん岡山に帰った後、筑波に向かいました。筑波研修センターでは殺風景な個室が与えられ、一転して静かな環境となりましたが、あいかわらず雨ばかり降っていました。

研修は終わりましたが、今回得た貴重な人と人とのネットワークを今後にし、大切にしていきたいと思います。筑波大学の研修スタッフの皆様には大変親身なお世話をいただき、ありがとうございました。また、この多忙な時期に長期間の研修の機会を与えてくださった本学のスタッフに感謝しています。

（もりたに・めぐみ 附属図書館雑誌係）

灯台下暗しにならぬ様に

岡 篤 史

私は、現在カウンターにて資料の貸出・返却業務などを行っています。しかし、資料に関する問い合わせ以外にも、「学部はどこにあるのですか?」「事務局はどこにあるのですか?」といった道案内や落し物に関する問い合わせなどいろいろなことを聞かれます。ある日、利用者の方から「玄関先に鮮やかな葉をつけた木がありますけれど、あれは何と言う名前でしょうか?」と聞かれました。私は、「すみません、私は木の名前に関して疎いもので存じ上げません。」と答えてしまいました。その後、同僚の方にその件を話すと、「何言っているんですか、楳の木ですよ。」と言われました。私は、あれが有名な閑谷学校から受け継がれた楳の木かと合点しましたが、時既に遅くその利用者に伝えることができませんでした。毎日楳の木を見ていてかつ楳の木にまつわる話を知っているのに、先の質問に答えられないとは、灯台下暗しもいいところだなと思いました。

そんな私がこの図書館報「楳」に記事を書かせていただく資格があるのかどうか分かりませんが、拙いながらも勤務の感想と今後の抱負を書かせていただきます。自己紹介が遅れましたが、私は勤務経験が1年に満たない新米図書館員です。他の図書館員と変わっている点として、私の大学時代の専攻が化学ということがあります。大学時代には、“Surface Science”と“Physical Review”という雑誌をメインに読んでいました。しかし、院生以上の方だにご存知だと思うのですが、分野が細分化されてくると分厚い雑誌1冊の中で、自分に役に立つのは5~6ページ程度の論文1つだけということが多く、インデックスをざっと読むだけでも大変で、それを複数巻分読まなければならないのが苦痛でした。元来面倒くさがりの私は、ある日研究室の先輩に尋ねました。

私 「自分が研究している化合物から検索できるシステムってないのですか?」

先輩 「そんな都合のいいものがあるか。単年ごとのインデックスで調べろ。」

私 「……………(そういうものなのか)」

その後は、先生方や先輩方の口コミを頼りに論文を探す方法で対処していました。しかし、修中間近、先生から“CAonCD”という便利なシステムがあると言われて、衝撃を受けました。それこそ、先輩に尋ねたシステムだったからです。単年ごとにCDが違うという制限こそありましたが、化合物・著者などから瞬時に検索でき、かつabstract(概要)が読め、さらに購読雑誌ならば本文も読めるという画期的なシステムでした。今まで触れなかったマイナーな雑誌に貴重な情報が載っていたのを見て、少し悔しい思いをしました。負け惜しみかも知れませんが、“CAonCD”がもっと早く世に出ていれば私の修士論文ももうちょっとましなものになったかなと思います。

附属図書館に配属されて、“CAonCD”が“SciFinder”に進化して、さらに利便性をましたのを知って驚きました。情報システムが飛躍的に進歩していることを実感しました。情報技術の発展とともに、図書館が情報技術に依存する度合いは年々増してきています。これからの図書館/図書館員に必要なってくるのは、情報技術をきっちり使い切るスキルを持つこととWEB等を使って情報を発信していくことだと考えています。もちろん、情報発信する上で一番大事なものはオリジナルコンテンツです。岡山大学には、先生方の最新の研究成果、池田家文庫という貴重なオリジナルコンテンツがあります。このオリジナルコンテンツこそ守っていくべき・発信していくべきものであり、それを見逃してはいけません。冒頭での「灯台下暗し」の一件は、自戒の意味を込めて忘れないようにしていきたいと思います。

(おか・あつし 附属図書館資料運用係)

エルゼビア電子ジャーナル問題と 学術情報の価格高騰に対する動き

電子情報係

1. 電子ジャーナルの課題

大手出版社からはじまった電子ジャーナルの価格モデルの多くは、機関レベルの合意のもとで、購読雑誌維持を確約させるものです。簡単に言うと、冊子体のキャンセルを認めないということを示しています。ところが、日本のほとんどの大学では、外国雑誌の選択を各研究室が中心となって行っており、その負担の多くは部局や教官に細かく配分された予算の中から支払われています。大学や部局にとって財政状況の厳しい折、購入物品の見直しはやむを得ないのか、外国雑誌も毎年のようにキャンセルが発生しています。電子ジャーナル・パッケージの契約条件として、冊子体購読金額の維持を条件付けられている大手出版社の場合、冊子体購読のキャンセルの増加は、冊子体のみならず電子ジャーナルの継続を困難にすることにつながります。

このままでは、岡山大学において研究に不可欠な学術情報アクセスの危機が危惧されるところです。限られた予算の中で、どのような電子ジャーナルを安定的に整備すべきか、電子ジャーナルの評価が重要な課題と言えるでしょう。ちなみに、平成16年度国立大学図書館協議会がコンソーシアムとして価格交渉を行っている電子ジャーナルのパッケージ製品を下表に示します。

出版社名	岡山大学参加有無	冊子体購読維持条件有無	冊子体維持にかかる負担
Elsevier			部局希望のタイトル購読分は部局負担 冊子体購読維持不足分は図書館負担
Blackwell Publishing Group			部局希望のタイトル購読分は部局負担 冊子体購読維持不足分は図書館負担
Springer-Verlag			部局希望のタイトル購読分は部局負担 冊子体購読維持不足分は図書館負担
Wiley			部局希望のタイトル購読分は部局負担 冊子体購読維持不足分は図書館負担
American Chemical Society			
American Physical Society		×	部局負担
Association for Computing Machinery		×	
BioONE		×	
Cambridge University Press			
IEEE		×	
Kluwer Publishing Group			
Lippincott Williams & Wilkins			
Nature および姉妹誌		×	
EMBO Journal, EMBO Report		×	部局負担
Oxford University Press			

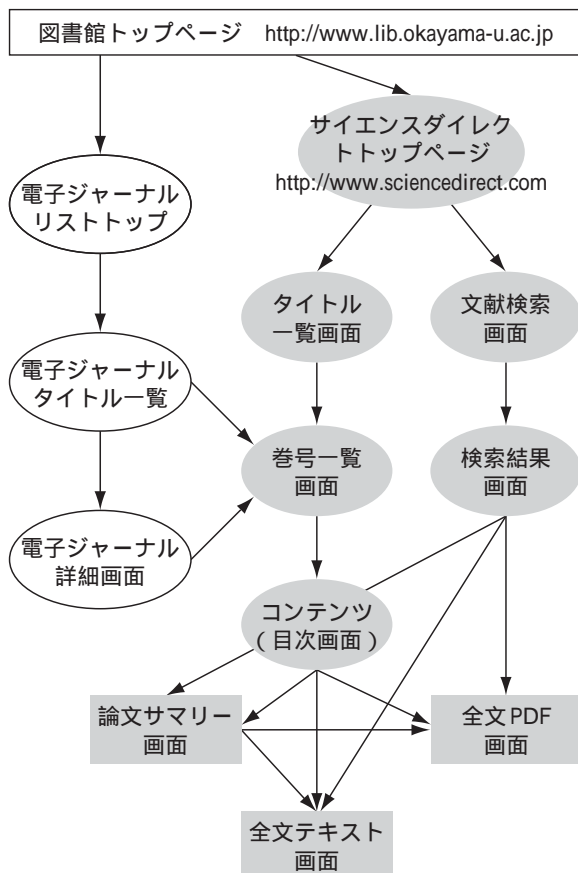
2. エルゼビア社電子ジャーナルのインパクト

附属図書館は、世界的に評価の高い学術雑誌を多く含んでいるエルゼビア社の電子ジャーナルシステム「サイエンスダイレクト」について、平成14年度からライフサイエンス系（農学、生物学、生化学、遺伝学、免疫学、微生物学、医学、歯学、神経科学、毒物学、薬学）タイトルの全文アクセスを提供してきました。

学術情報への電子アクセスが増加している中で、平成16年度サイエンスダイレクトから見ることでできるライフサイエンス系以外のエルゼビア社出版のタイトルにも全文アクセスするための契約を行いました。

ライフサイエンス系以外にも、人文科学、ビジネス、マネージメント、会計学、化学、工業化学、コンピュータ、地球科学、宇宙科学、経済学、エネルギー、工学、環境科学、材料科学、数学、看護学、健康科学、物理学、天文学、心理学、社会科学、動物学などの分野の学術雑誌が収録されており、岡山大学キャンパス（津島、鹿田、倉敷、三朝、牛窓、津高、東山、平井地区）の学内ネットワークに接続されているパソコンから、1999年以降に出版されたサイエンスダイレクトの全文フルテキストにアクセスすることができます。本学の職員や学生は、24時間利用することができます。平成14年度は、年間約5万件（広島大学の1/3）の全文利用がありました。今回のエルゼビア社電子ジャーナルの全タイトル契約が、平成16年度岡山大学の学術情報アクセスにどのようなインパクトを与えられるか、他社も含めて全文利用実績の伸びを注目していきたいと思えます。

Science Direct の流れ図



平成17年度・冊子体購読維持のお願い

平成17年4月以降もサイエンスダイレクトの全タイトルについて、全文アクセスを利用できるようにするためには、平成16年度に各部局、学科、講座で購読しているエルゼビア社の冊子体購読タイトルを維持していただくことが前提条件となります。

契約部局は平成17年度の外国雑誌購読調査において、冊子体のキャンセルをしないようお願い申し上げます。

また、エルゼビア社以外の大手出版社（ブラックスウェル社、シュブリンガー社、ワイリー社）の電子ジャーナルについても、平成16年度は継続を行います。冊子体購読の中止によって、平成17年度以降電子ジャーナルの提供が難しくなりますので、くれぐれも購読雑誌の中止をしないようお願い申し上げます。

3. 学術情報をめぐる商業出版社への対抗 SPARC を中心として

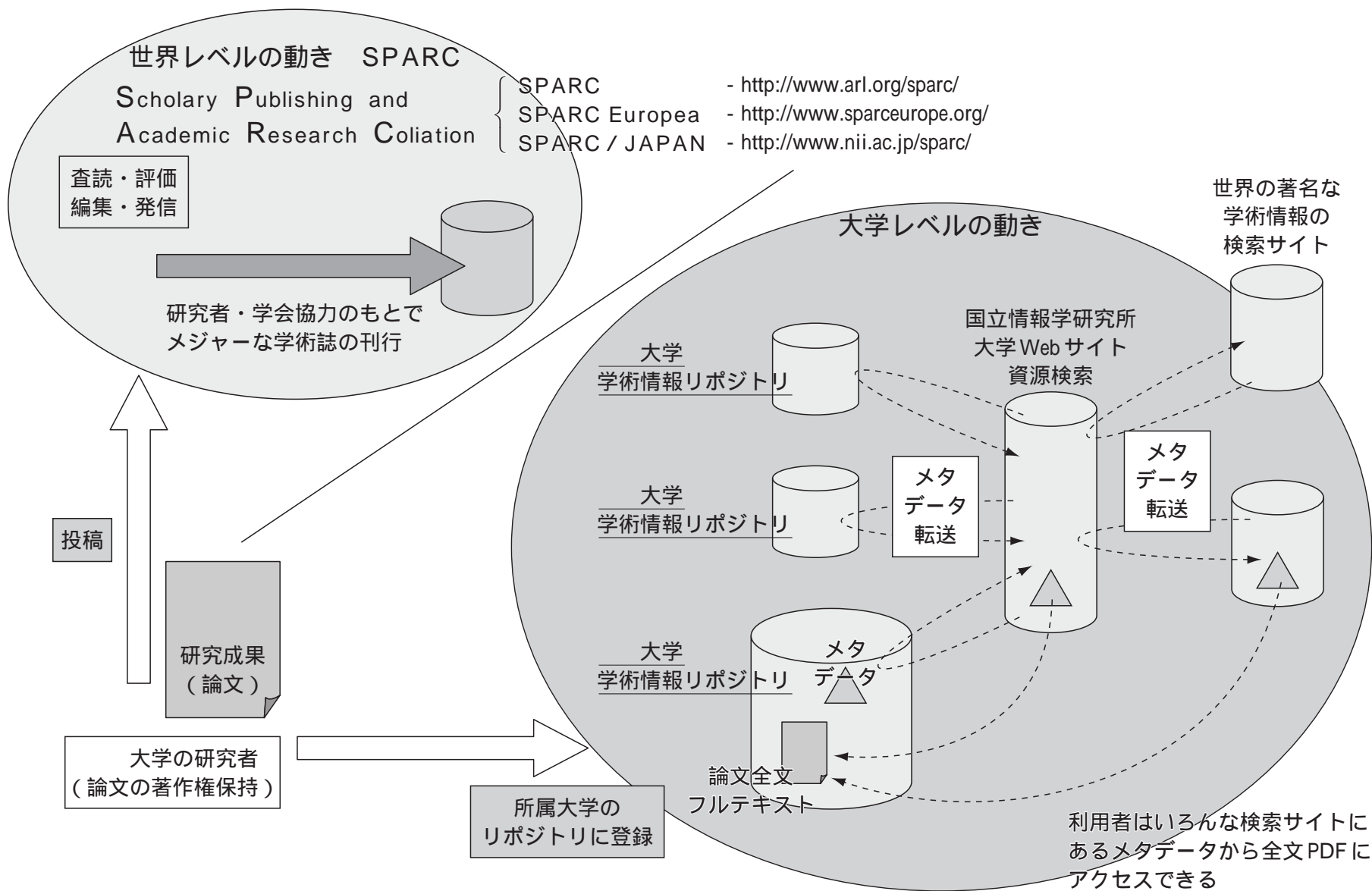
学術情報は、学術研究の成果として得られた結果であり、その利用は無償でなければならないという考え方があります。これに反するように、商業出版社や学会出版社が、冊子体から電子ジャーナルに重点を置き換える中で、学術雑誌の市場の寡占化が進んでいます。例えば、2001年には、エルゼビア社による医学系大手出版会社であるハーコート・ジェネラルの買収、ブラックウェル系列会社の統合があり、更に2004年春にはシュプリングァー社とクルーワ社の合併の情報が流れています。大手出版社による学術雑誌の寡占化は、価格高騰に拍車がかかるだけでなく、購読中止や研究者からの学術情報コントロール機能の喪失など、多大な悪循環をもたらしていると言えるでしょう。

学術論文の生産過程における、評価・編集・流通の一連のプロセスは、そのコントロールを出版社に牛耳られ、著作権は出版社に譲渡され、価格までも出版社によって設定されてしまっています。このような流れを断ち切るためには、学術情報のコミュニケーション・システムを商業主義から研究者中心になるようにするため、とりわけ大手商業出版社に頼らない学術情報のコミュニケーション・システムの確立と研究者自身の意識の改革が必要といえます。

欧米では、日本よりも一足先に研究者・学協会が中心となって、大手出版社の価格高騰に対抗して、高額雑誌に対抗できる雑誌を刊行するプログラム SPARC (The Scholarly Publishing and Academic Research Coalition <http://www.arl.org/sparc/>) の活動がスタートしています。日本でも、国立情報学研究所が国際学術情報流通基盤整備事業 (<http://www.nii.ac.jp/sparc/>) を立ち上げて、平成15年度に参画英文論文誌を公募した結果、16機関21誌が選定されています。

その他の流れとして、大学の情報発信機能を駆使して、機関規模で生産した学術情報(研究成果)を大学で蓄積・保存し、学内外に無償で発信するための電子書庫の仕組みを作成することが叫ばれています。このような学術情報の蓄積基地を、「学術機関リポジトリ」や「機関・大学リポジトリ」と言います。リポジトリに蓄積された情報(文献、プレプリント等の目録情報)は、国内外の知名度の高い検索サイトに自動転送され、より多くの研究者や一般利用者にアクセスしてもらうことが可能となります。このような先進的な事例として、千葉大学は「千葉大学学術情報リポジトリ(仮称)」(<http://mitizane.ll.chiba-u.jp/information/>)を開発し、平成16年4月から運用を開始する予定となっています。

学術コミュニケーションの変革



池田家文庫等貴重資料展 「新田開発をめぐる争い 岡山藩の新田開発(2)」

情報サービス課

はじめに

平成15年10月23日(木)から11月1日(土)までの10日間、附属図書館新館5階特殊資料展示室において、恒例の貴重資料展を開催しました。テーマは「新田開発をめぐる争い 岡山藩の新田開発(2)」です。

資料展では、江戸時代に児島湾や高梁川河口付近での新田開発にあたって地域で起きた境界や用水・漁場などをめぐる争論についての絵図や文書など26点を展示しました。争論の過程で登場する様々な絵図は児島湾の新田開発の変遷がわかる大変興味深いものでした。

資料展には日本地理学会の会員や学外からの見学者など約620名が訪れ、貴重資料を熱心に鑑賞し、また多くの方々から貴重なご意見等も寄せられました。ここにそれらを含めまとめて報告します。

展示品一覧

1. 備中国絵図
2. 備中国之内岡山御領分と他領入組絵図
3. 大原孫左衛門宛佐藤修理書状
4. 備中国十一郡帳
5. 四十瀬新田村埋川村絵図
6. 備中国浅口郡阿賀崎村周辺村々用水絵図
7. 備中国浅口郡阿賀崎村新開かぶせ絵図
8. 撮要録・巻九
9. 備中国浅口郡西大島村小田郡横島村境絵図
10. 西大島御新田所道川溝筋間尺相改見分之絵図
11. 児島内海干潟分間見取絵図
12. 児島内海分間見取絵図
13. 備前備中国境并海面御裁許絵図
(岡山市教育委員会所蔵)
14. 安東七郎大夫存寄書付
15. 興除新田紀・全8冊
16. 児島海面備中早島地先新田之儀一件
児島海面干潟備中早島新田悪水抜溝之儀一件
児島内海妹尾沖新田一件稿
児島海附洲新開御検使御出一件
御裁許江戸留守居より申来趣
17. 興除新田開発目論見略図
18. 児島郡福田村新田願書写
19. 児島新田出入二付備中五ヶ領役人并私共十一月十六日初会と十二月三日迄申談候趣書上
20. 的場喜六郎承合書付
21. 本郷沢蔵奉公書
22. 児島郡福田新田堤外大川水尾筋見取絵図
23. 備中松山川流末連島児島郡間之絵図
24. 備前国児島郡福田新田村請流作場絵図
25. 備前国児島郡福田沖新開場所絵図
26. 福田沖新開一件

講演会

10月25日(土)には東京大学史料編纂所助教授・杉本史子氏の「近世の境界争論と裁判」と題する講演会が附属図書館新館5階大会議室で開催されました。約50名の来場者が興味深く聴き入っていました。

来場者統計

来場の情報源（複数回答）

新聞 10.9% ポスター 44% ホームページ 6.3% その他 38.9%

その他内訳（学会参加の案内より、人より、先生から、TVニュースで等）

来場理由（重複回答）

内容に興味 59.6% 図書館に興味 6.7% 時間に余裕 13.5% 近いから 14.9%

その他 5.8% その他内訳（絵図の研究、昔の地図を見たい、地元のことを知りたい、貴重資料が直接見られるから、ボランティアガイドの参考にしたい等）

展示点数

多い 1.8% 適当 85.5% 少ない 11.5% 無回答 1.2%

解説内容

難しい 23.6% 普通 70.9% 易しい 4.8% 無回答 0.7%

その他意見等

- 貴重な資料の原本に接するのは得難い経験
- 現在の位置がわかると絵図の理解が深まる
- 展示回数を増やして欲しい
- 絵図の色が意外に残っているのが印象的
- 資料解説がもう少し多い方が、読み応えがあっていい
- 西暦表示など時代の流れを強調して欲しい
- 特殊な漢字にはルビが必要

ほか多数いただきました。

おわりに

資料展の開催については新聞記事やTVニュースで取り上げられ、今年の入場者は昨年に比べて若干増加しました。多くの市民の方々に資料展に興味を持って頂くには、まだまだ我々のPRへの努力不足を実感しています。今後、見に来て頂いた方々には資料展開催に関する情報を配信する等、リピーターが増えるような方法を探求する必要があると考えています。

マスカット

サービスカウンターの移動（中央館）

サービスカウンターは本館の貸出カウンターと新館の参考調査・相互利用カウンターの2カ所に分散していました。平成16年4月の法人化により職員の削減が実施されるため、分散しては十分なサービス提供はできません。そこで平成16年1月よりカウンターを1カ所に集約して利用者サービス及び利便性を向上させました。

図書館ボランティアとの懇談会の開催について

平成15年12月現在で、図書館ボランティアとして、男性6名、女性2名、合計8名の方々に活動していただいています。

作業の内容は、図書・雑誌の配架、雑誌の装備、複写の手伝い、相互貸借の手伝い等で、誠心誠意の活動に、館員一同深く感謝しているところです。

一日平均では、平成15年4月が2.4人（8.07時間）、5月が2.5人（8.36時間）、6月が2.8人（9.24時間）、7月が2.5人（8.32時間）、8月が2.0人（7.17時間）、9月が2.5人（8.48時間）、10月が2.3人（7.84時間）、11月が2.2人（7.28時間）、12月が2.3人（7.64時間）のご援助をいただいています。

ボランティア導入から早6年経ちますが、今年も恒例のボランティアの方々との懇談会を、平成15年12月24日（水）16:30から、附属図書館大会議室で開催しました。ボランティア6名（図書館側7名）の参加があり、ボランティアの方々からの貴重な感想・意見等を頂戴しました。

懇談会終了後、日頃の活動への感謝の意を表すためと懇親を図るために、場所を替え、懇親会を開催しました。会では、腹蔵のない話題が飛び交い、大いに懇親の実が上がり、非常に有意義な会となりました。

平成14年度遡及入力結果報告

平成14年度は、26,329冊を入力しました。これで、304,775冊を入力したことになり、遡及入力対象冊数の34.3%が入力済みとなりました。

教官からの寄贈図書リスト

次の方々から著書を寄贈いただきました。ありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

中央館

井口文男（翻訳）〔法〕

憲法の硬性と軟性（A. パーチェ著） 有信堂高文社，2003 （323.01/P）

竹下光夫〔工〕

機械の知能・学習・進化：やわらかい機械をめざして 大学教育出版，2003
(007.13/T)

田中宏二 [教]

健康防御への社会的支援介入法の適用に関する総合研究：平成7 - 9年度科学研究費補助金
基盤研究(B)(1)研究成果報告書 田中宏二, 1998 (F377/9 - T)

高齢者の在宅介護者に対するソーシャルサポート介入に関する基礎研究：平成10 - 12年度科学研究費補助金 (基盤研究(C)(2)) 研究成果報告書 田中宏二, 2001 (F377.7/12 - T)

田中共子 [文]

異文化間ソーシャル・スキル学習による臨床社会心理学的介入研究：平成12~14年度科学研究費補助金 (基盤研究(C)(2)) 研究成果報告書 田中共子, 2003 (F377.7/14 - T)

洞 彰人 (共同編集) [環]

Non-commutativity, infinite-dimensionality and probability at the crossroads : proceedings of the RIMS workshop on infinite-dimensional analysis and quantum probability, Kyoto, Japan 20 - 22 November 2001 World Scientific, c2002 (421.5/N)

三谷恵一 [文]

脳と知覚学習：環境心理学の再出発 ブレーン出版, 2003 (141.33/M)

子どもの心理学 ブレーン出版, 2002 (376.11/M)

山本 格 (編集) [薬]

Basic 生物・化学英和用語辞典 化学同人, 2003 (S460/B)

鹿田分館

太田にわ (部分執筆) [医保]

現代社会福祉の諸問題：介護保険の現状と財政を中心に 晃洋書房, 2003 (369/SA)

森 昭胤 (監訳) [名]

薬物による予期せぬ作用：生化学・薬理学テキスト じほう, 2003 (491.5/RA)

山本 格 (編) [薬]

Basic 生物・化学英和用語辞典 化学同人, 2003 (S460/BA)

資源生物科学研究所分館

佐藤和広 (共著) [大麦・野生植物資源グループ]

Diversity in barley : Hordeum vulgare Elsevier Science, 2003 (322/1112)

(敬称略五十音順)

会議

学外

15.10.6 岡山県大学図書館協議会第19回研修委員会（於 倉敷芸術科学大学図書館）

10.9 ~ 10.10

平成15年度国立大学図書館協議会中国四国地区協議会実務者会議（於 徳島大学附属図書館）

・法人化をとりまく諸問題について

10.23 ~ 10.24

第44回中国四国地区大学図書館研究集会（於 松山大学附属図書館）

・「ネットワーク環境における大学図書館 図書館ホームページの運用・活用」

11.7 平成15年度中国四国地区国立大学附属図書館事務（部・課）長会議（於 広島大学附属図書館）

・国立大学法人化後の諸問題について

11.13 ~ 11.14

第39回日本医学図書館協会中国四国部会総会（於 徳島大学附属図書館）

16.1.22 ~ 1.23

平成15年度国立大学附属図書館事務部長会議（於 名鉄トヤマホテル）

・法人化後の図書館の位置づけと事務組織体制等のあり方について

学内

15.10.30 平成15年度第2回附属図書館運営委員会

15.12.11 平成15年度第3回附属図書館運営委員会

研修

学外

・平成15年度図書館等職員著作権実務講習会
参加者 嵯峨奈美子・竹下啓行・大園隼彦・藤原智孝・四方幹子（15.8.27 ~ 8.29）

・平成15年度大学図書館職員講習会
参加者 西村朋子（15.11.11 ~ 11.14）

・平成15年度岡山県大学図書館協議会第1回研修会
参加者 岡篤史（15.11.27）

・平成15年度学術情報リテラシー教育担当者研修
参加者 嵯峨奈美子（16.1.18 ~ 1.21）

・平成15年度第1回岡山県電子図書館研修会
参加者 山室洋子（16.2.5）

学内

・平成15年度（後期）岡山大学職員研修（放送大学科目履修コース）

参加者 山田智美（15.10.1 ~ 16.1.28）

・平成15年度岡山大学事務系職員語学研修（英語・中級コース）

参加者 大園隼彦・四方幹子（15.10.1 ~ 15.11.21）

編集委員会から

「楳」第38号をお届けします。今号では資源生物科学研究所分館長、玉田教授に興味深い記事を、また図書館からは、中堅・新人それぞれの記事を寄稿していただきました。お忙しい中ありがとうございました。

国立大学では、法人化に伴い図書館の位置付けも変化しているようです。進化に繋がるよう希望を持って、新しい時代に期待したいものです。

岡山大学附属図書館報「楳」 No.38 平成16年2月27日

発行人 仲野憲一 編集 広報委員会

岡山大学附属図書館発行 〒700 8530 岡山市津島中三丁目1-1 電話 086 252 1111

ホームページURL <http://www.lib.okayama-u.ac.jp/>